

井伊氏の歴代を祀る龍潭寺 (提供/浜松市)



刀剣界最大のイベント、第二十九回「大刀剣市」が十一月十八〜二十日に東京美術倶楽部で開催されます。七十を超える全国の刀剣店から名品・珍品・掘り出し品が出品され、それに加えて「我が家のお宝鑑定」や「現代刀匠による銘切りの実演」もあり、毎年たくさんのお客さまがおおいでくださいます。

また、大刀剣市とともに重文室では、NHK大河ドラマにちなみ『真田丸』と『おんな城主直虎』の時代の刀展が開催されます。

『真田丸』は現在放送中で、タイトルの真田丸が大坂城に出来上がり、徳川軍との戦いになるというクライマックスに差しかかっています。一方、『おんな城主直虎』は来年の大河ドラマですが、話はいささか難しいです。

井伊直虎は、戦国時代の遠江国の領主・井伊直盛の娘として生まれます。この時代には珍し



徳川家康が17年間を過ごした浜松城 (提供/浜松市)

その後も今川義元・氏真に当主や重臣を死に追い込まれ、平安時代から五百年続いた井伊家は滅亡の危機に。永禄八年(一

く一人っ子だったので、直盛の叔父の子である直親を養子とし、結婚させようとしたが、直親が今川氏に命を狙われ破談になってしまいました。直虎は自ら出家して次郎法師と名乗り、生涯独身を通します。

五六五)次郎法師は還俗して直虎を名乗り、直親の遺児である虎松(後の井伊直政)の養母・後見人として城主となり、天正三年(一五七五)二月、直政を徳川家康に出仕させます。直政は同年五月、長篠の合戦に小姓として従軍します。

そこからの直政は、徳川四天王と呼ばれるまで、まさに出世街道一直線です。

『真田丸』と『おんな城主直虎』の時代の刀展では、そのような時代に製作された刀の中でも製作年の入ったものを中心に、豪華な展示となっています。

孫右衛門尉清光、五郎左衛門尉清光、堀川国広、出羽大掾国路、平安城弘幸、初代康継など、愛刀家ならぜひ手に入れたい名品が並びます。

そんな中に「高天神」と三字銘を切っ



浜松みをつくし文化センターホールに「大河ドラマ館」がオープン

た刀があります。佐藤寒山先生が「高天神城の兼明の作であろう」と鞘書きに記しておられます。高天神城は現在の新幹線掛川駅の南側に位置し、戦国時代には重要な戦略拠点だったようです。武田軍の陣地だったのを、天正六年に徳川家が奪い取ったのですが、長篠の小姓を除けば井伊直虎のまさに初陣、この戦の軍功により一気に二万石の大名に出世するのです。

「高天神」の刀には年紀はありませんが、井伊直虎が彦根城主・徳川四天王へと駆け上る原点とも言える地で製作されたものです。

というわけで、今年の大刀剣市も魅力いっぱい催しがたくさんあるので、どうぞいらっしやってください。(持田具宏)

特別展「『真田丸』と『おんな城主直虎』の時代の刀」に寄せて

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2016.11.15 No.32

発行人 深海 信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
<http://www.zentoshou.com/>

第32号編集担当
 赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生
 大平 将広 木村 隆志 嶋田 伸夫 清水 儀孝
 生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦 玉山 真敏
 土子 民夫 綱取 譲一 土肥 富康 服部 暁治
 深海 信彦 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏

1988年	7振の名刀展
1990年	刀剣界戦後の歩みと21世紀への展望
1991年	人間国宝阿彌日洲先生による特別鑑定講座
1992年	武将と名刀展
1993年	伝統を守る匠の技展
1994年	相撲にまつわる刀展
1995年	小品展
1996年	日本刀装具美術館蔵名刀展
1997年	毛利家ゆかりの刀剣と武具名品展
1998年	日本刀作家人間国宝展
1999年	元禄期の名刀展
2000年	徳川家ゆかりの名刀展
2001年	北条時宗時代の名刀展
2002年	加賀前田家の重宝と桃山期の名刀展
2003年	宮本武蔵ゆかりの名刀展
2004年	新撰組ゆかりの名刀展
2005年	源義経の時代の名刀展
2006年	戦国時代の名刀展
2007年	日本の甲冑展
2008年	新作刀とその技を支える匠展
2009年	上杉家ゆかりの名刀展
2010年	坂本龍馬と幕末の名工達展
2011年	江とその時代を生きた名工達展
2012年	清盛と頼朝の時代の刀展
2013年	幕末を彩る刀工達展
2014年	黒田官兵衛とその時代の刀工達展
2015年	吉田松陰の時代の刀展

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
 TEL 0258-33-8510
 FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
 年間10回位発行予定
 購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
 TEL 042-463-5310
 FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
 TEL 〇八六二二二二二二二
 工房 岡山市北区磨屋町七二二
 TEL 〇八六二二二二二二二
 FAX 〇八六二二二二二二二

刀剣古美術

町田久雄

三峯美術店

埼玉県秩父市野坂町一十六六一二
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内
 TEL 〇四九四二二二二二二
 FAX 〇四九四二二二二二二

美術刀剣、小道具、武具類の
 売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
 TEL 〇六一六六三一二二二〇
 FAX 〇六一六六四四一五四六四

「大刀剣市」事前説明会を開催

第二十九回「大刀剣市」は十一月十八日(金)二十日(日)の三日間、東京・新橋の東京美術倶楽部で開催されます。それに先立ち十月二十三日、組合交換会終了後、大刀剣市の事前説明会が開かれました。

松本理事が司会を務め、眞賀副理事長が開会の言葉を述べた後、出欠の確認が行われました。本年度の出店者数七十一に対して、説明会出席は六十七店舗でした。

続いて深海理事長が挨拶に立ち、まず本会への出席の礼を述べ、説明会の意義と必要性を説かれました。図録に掲載する写真撮



熱心に大刀剣市の説明に耳を傾ける出店者の皆さん

りました。嶋田理事からは会場設備、搬入などに関して、細部にわたって説明と要請が行われました。「我が家のお宝鑑定」については、赤荻から今年も例年通り行う旨申し上げました。生野理事は図録作成のプロセスを説明し、写真についての技術や問題点を解説されました。服部常務

影の変更にも触れ、併せて組合活動への理解と協力を強く求められました。また「刀剣評価鑑定士」の検定事業についても説明がありました。

最後に、事前説明会への出席は出店条件の一つであると説かれ、皆さんが一致団結して大刀剣市を成功に導いていただきたいと結ばれました。

次いで個別の説明に移り、眞賀副理事長がLED照明の導入などの詳細なデータを示し、出店料の値上げについて理解を求めました。伊波常務理事からは、広告やPRシティーについての説明がありました。

理事からは分割払い、カード支払いの際の注意点が説明されました。

その後は質疑応答に移り、複数の方からLED照明や防犯、保険などについて質問が出るとともに、活発な意見が交わされました。参加される全日本刀匠会からはお礼の言葉もありました。

これまでも十分ではなかったテレビなどのメディア対策についても話し合われました。

当日のやりとりを踏まえ、わが組合が大刀剣市を開催する目的・意義についてあらためて整理しておきます。

- ①組合員の経済活動を促進し、組合員および業界の社会的・経済的地位の向上を図るとともに、顧客に対応するサービスの向上に努める。
- ②刀剣・刀装具および甲冑・武具などに対する一般の関心を高め、美術品としての保存が図られるよう、また、それが心ない人たちに決して使用されることのないよう啓発活動を行う。
- ③新たな愛好者を獲得する。
- ④社会貢献をする。

最後に、猿田副理事長の言葉で閉会となりました。約一時間の会合でしたが、大刀剣市の成果や課題を再確認する上で大変有意義でした。(赤荻 稔)

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
株城南堂古美術店
 代表
田中 勝憲
 〒153-0051 東京都目黒区上目黒四-1-110
 TEL 03-3711-0167
 03-3711-0167
 FAX 03-3711-0167

新橋会熱海大会開く

恒例の新橋会(新堀孝道代表)熱海大会が九月十五日、あたま石亭にて開催されました。ここ数年は毎年欠かさず開催しています。

最近の大会としては最大の動員数を誇っているようで、全国各地から参集した会員・客員で賑わっていました。会主が横浜住人、開催場所が熱海というところもあり、とりわけ神奈川県業者が多く、さらながら神奈川県会の様相を呈していました。会主の温厚さと買いつぶり、子息三兄弟のお笑い芸人顔負けの運営力が大勢の参加者を集めていたようです。

足の踏み場もないほどの品物入札品も多く、終了予定時刻を大幅にずれこみ、ホテルの担当者をあわてさせた一幕もありました。出品の中に夏雄の鐔が出ていたのは、「さすが大会だなぁ」とうなっていました。

毎月十五日の例会が新橋プラザビルで開催されているのが、会の名前の由来です。新橋会はこの名

称になって五年目ですが、以前は浅草で開催していたのになぜか築地会の名称でした。それは改称したからです。

起源は飯田隆久氏の始めた蒲田会です。場所も蒲田の神社でしたが、東京の西南端でやや遠いので程なく築地に会場を移し、しばらくして築地会と改称しました。それから紆余曲折があり、西浅草の浜清という料亭に会場を移し、料亭の閉鎖に伴って浅草の割烹金泉へ。しかし、これもだんだん手狭になり、現在の新橋プラザビルへと落ち着きました。(服部 暁治)

アオバ企画株
高橋 一
 〒130-0012 墨田区大平四-1-19
 TEL 03-3661-1111
 FAX 03-3661-1111
 メール aobak@pb8.so-net.ne.jp

「登録証問題」を考える ⑤

事例⑨

福島県で登録済みの刀剣を海外輸出のために輸出監査証明を申請したところ、登録証記載の目釘穴の数が現物と違うため、輸出監査証明を発行してもらえませんでした。

登録証の穴の記載は二個、実際は三個で、穴は小さく中心尻に埃に埋もれていて、うっかり見逃していました。福島県教育庁文化財課に登録証の照合をもらったところ、やはり登録台帳の穴は二個で、実際は三個でした。どうすればよいかお尋ねしたと

東京・目白の永青文庫で先ごろ開催された「歌仙兼定登場」は、その命名・企画が細川護熙元首相であったことや、人気がオンラインゲーム「刀剣乱舞」の「ミヅノ」のコラボレーションでも話題となったが、会期中の九月十七・十九日、文京区立新江戸川公園松聲閣では同公園主催の「刀剣・武具講座」が開催されていた。

新江戸川公園は元は肥後熊本藩細川家の下屋敷で、松聲閣は学問所として使用されていた。新江戸川公園はその成り立ちから、公募によって選ばれた「肥後細川庭園」に改称することも決定している。

本講座の企画・運営には公益財団法人日本刀文化振興協会が協力し、講師として研師の阿部一紀・本阿彌雅夫・森井鐵太郎・阿部聡一郎の各氏が指導に当たった。

「日本刀鑑賞会」和泉守兼定を手にとって感じてみよう。うーは、之定をはじめ、古刀から現代刀まで専門家のアドバイスを受けながら刀の魅力を体感しようとするもの。

「日本刀の銘や刃文を写し取って自分だけの押形を作ってみよう」では、一般にはあまりなじみのない押形を体験学習してもらう試み。

さらに「一流研師による研磨工程の解説と実演」は、日本刀の輝きがいかにして発揮されるか、間近で理解してもらうとの意図。

三つの講座とも定員を設け、若干の参加費を頂くシステムだったが、たちまち定員に達し、掛け持ちで受講する方も少なくなかった。受講生は圧倒的に若い女性が多く、しかも熱心この上ない方ばかり。刀の世界が確実に広がりをみせていることが実感できた。

ほかに「江戸甲冑職人・加藤美氏の御守作り」や、白銀師・宮島進二郎氏の作品展示があったが、いずれも好評だった。



指導を受けながら初めての押形に挑戦



刀を鑑賞する受講生

文京区立新江戸川公園松聲閣「刀剣・武具講座」兼定展に合わせ「刀剣・武具講座」を開催

細川家の下屋敷で、松聲閣は学問所として使用されていた。新江戸川公園はその成り立ちから、公募によって選ばれた「肥後細川庭園」に改称することも決定している。

本講座の企画・運営には公益財団法人日本刀文化振興協会が協力し、講師として研師の阿部一紀・本阿彌雅夫・森井鐵太郎・阿部聡一郎の各氏が指導に当たった。

「日本刀の銘や刃文を写し取って自分だけの押形を作ってみよう」では、一般にはあまりなじみのない押形を体験学習してもらう試み。

さらに「一流研師による研磨工程の解説と実演」は、日本刀の輝きがいかにして発揮されるか、間近で理解してもらうとの意図。

三つの講座とも定員を設け、若干の参加費を頂くシステムだったが、たちまち定員に達し、掛け持ちで受講する方も少なくなかった。受講生は圧倒的に若い女性が多く、しかも熱心この上ない方ばかり。刀の世界が確実に広がりをみせていることが実感できた。

ほかに「江戸甲冑職人・加藤美氏の御守作り」や、白銀師・宮島進二郎氏の作品展示があったが、いずれも好評だった。

(いずれも提供/新江戸川公園)



風向計

其之二十一

深海 信彦

本紙では業界を挙げての刀剣類の登録証に関する主張や運動を毎月掲載しており、本欄でも主に所有者変更届に関する問題について第三十号にて触れたが、その後同様な事例が続出している。六十五年間にわたる約二百五十万点にも達する登録刀剣に付帯する登録証の不備は、もはや個々の発生日を列挙して啓蒙・広報活動を何年間かけて展開しようとも、各都道府県の登録事務等の担当者は数年ごとに入れ替わり、刀剣に関する専門家が不在である以上、登録証に関する問題は解決の糸口さえ見出し得ない状況にあると言える。

ごく最近寄せられた事例を挙げてみよう。
大分県教育庁文化課に、丹波守吉道の刀の登録証記載内容について問い合わせたところ、こちらで読み上げる内容を一通り聞いた上、「何力所とは言えないが、台帳と異なる部分がある」との回答。結局判明したことは、発行日の七日と五日の相違であった。それも登録発行日当時の記入者のクセで「七」が「五」と読めるといふ単純なもの。このようなミスでも変更手続きをする側にとっては多大な時間を要することになる。
福島県教育庁文化財課においては、関住兼友の「友」の字が、登録証には「支」と記載されていた。これは刀剣を入手し所有者変更手続きを履行しようとする側には、明らかに何の落ち度もないはずであるのに、台帳に「友」か「支」どちらが記載されているかは「教えられない。偽造される可能性があるから」との返答であった。「友」か「支」の正しい方がわかったら偽造にどのように役立つのか、またそれによって登録証そのものが

が唯一、絶対正しい資料であるという考えに基づいていることがわかる。既に発行され、刀剣類に付帯されている登録証は、自由に流通しており、何時、誰かによって都合よく改竄されている可能性もあるということであり、実際何らかの理由で改竄された例も少なくはない。
この「改竄」と呼ばれるものには大別して二種類あり、他の刀の登録証を当該刀剣の種別・長さ・銘文等に合せて書き直す悪意の改竄と、登録証通りの刀剣等であるのに、寸法・銘文等に測り間違いや記入漏れがある場合、現物と一致していないので所持者が勝手に加筆してしまう行為がある。後者の場合においても、教育委員会の担当課では、所有者の指摘によって台帳を合わせることは建前上不可能であり、また台帳の内容を問い合わせるに対して回答する際に、入力担当者が草書体で書かれている「水心子正秀」の銘文の文字が理解できず、「水心子秀」としてしまったのである。この刀剣の取引は破談となり、返品となったという。
東京都教育庁地域教育支援部管理課では、若狭守氏房の平造脇差「一尺二寸」が寸法の測り間違いで「種別…短刀 長さ…9寸五分」となっており、登録証発行日は「3月30日」と記載されていたが正確には「3月31日」であるという。その一日の違いで所有者変更届は受理されず、寸法の間違ひは当然のごとく登録審査日に現物を持参して確認をする必要があった。審査会場で現物と台帳を照合した結果、台帳は「3月30日」で合っており、やはりデータの入力ミスであったことが判明した。
確かに、旧字体の「廿六年」や「廿参日」などは読みにくいものである。
以上の例を見ると、各都道府県の担当者が保管する登録台帳こそ

がある。それが登録証そのものの改竄等の不正によるものであることが明らかになれば、所有者自身が旧所有者に返却するなり、当局の指導のように警察に届け出るなどの責務が生じることもなるが、刀剣類にも登録証にも一点の不正がないにもかかわらず、登録事務に関する誤字・脱字、種別分類や寸法、発行年月の錯誤などによる所有者変更届出に対する不受理や不合理な対応は、何とか改めていただきたいというのが所有者の願望であろう。

最近では善意の届出に対しては理解を示す窓口も増えてきたが、元来、刀剣類等はすべて警察の所管であったものを、警察制度の改正に伴い昭和二十三年三月七日より事務部門に限り都道府県教育委員会に移管されたのである。故に刀剣そのものの扱いについては部門外のことであり、あくまでも現物と登録証の記載内容の一致に努め、現在の所有者を明確にした上で都道府県公安委員会に通知する役割を担っているにすぎず、届出や電話での内容確認をしてくる所有者に対しては合理的な回答は期待できなくて当然である。

刀剣に対する警察当局の考え方は、「登録」とはその刀が美術品として価値があることを公の権威をもって確定する「確認」行為であり、登録自体によって所持が合法されるものではなく、所持が適法とされるのは、銃刀法の規定の特別の法的効果によるもので、所持や所有者の実態はあくまでも公安当局が把握するものであり、登録に関する事務のみを教育委員会に行わせているのである。
このように、①刀剣等の発見届出を受け付けるのは警察署の窓口で、②登録審査は文化庁の所掌であり、③登録事務は教育委員会が担当し、④その資料は公安委員会に報告される、という経緯をたど

訃報

小野博柳(おの・はくりゅう)氏

東京都教育委員会銃砲刀剣類登録審査委員・東京国立博物館客員研究員・公益財団法人日本刀文化振興協会常務理事で当組合賛助会員の小野博柳氏(本名博)が亡くなられました。七十二歳。小野氏は重要無形文化財保持者(人間国宝)であった父光敬師に師事し、師とともに正倉院宝物刀剣類すべての研磨・修理に従事したほか、四十八年間にわたり東京国立博物館蔵刀剣類の保存・修理、国宝・重要文化財など多数の名刀の研磨に当たられました。ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

寺島慶一(てらしま・けいいち)氏

千葉工業大学工学部元教授、一般社団法人日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム元座長、公益財団法人日本刀文化振興協会評議員・主任研究員の寺島慶一氏が亡くなられました。七十二歳。専門の研究のかたわら日本刀の支援にも取り組まれ、「鉄の技術と歴史」研究フォーラム座長として二度にわたりシンポジウム「日本刀の神秘と科学を探る」を開催されました。ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

古河歴史博物館「赤羽刀と日本刀名品展」

既報の古河歴史博物館の「赤羽刀と日本刀名品展」は十月二十二日にスタートしました。

初日より盛況で、老若男女幅広い観客で賑わい、刀剣女子のブームもいまだ衰えずの感を強く持ちました。翌二十三日は新撰組刀剣研究者・権東品氏による記念講演「新撰組近藤勇と土方歳三の愛刀」があり、満席の聴衆を魅了しました。このような企画は、刀剣に対する一般の理解を深める絶好の機会であり、感謝しています。

講演後、再び展示室に戻り、あらためてじっくりと見直ししている方たちもたくさん見かけました。

関係上、所有者変更届出事務が円滑に進行されないからといって担当課の窓口のみ改善を訴えても容易にはかなわぬことであろう。そこで望まれるのは、国による登録刀剣の二元管理である。昭和の時代ではなく、住民台帳や課税面でもデータとしてコンピュータ管理されている平成の今日では、各都道府県で登録事務を行った刀剣類の基礎資料を、専門家を配置し一括管理することは多大な困難を要することは思えない。国で刀剣の専門家を養成するなり、委嘱するするなりして管理に当たれ

ば、行政当局の所期の目的は達成され、所有者変更手続きは申請する側も受理・対応する側も迅速かつ正確な法運用の実現が図られるのではなからうか。当局が実態の解明に手を拱いているのも、登録証実務が円滑に運ばれないのもひとえに刀剣等の専門家が担当窓口にいらないということであろう。二百五十万本以上ある登録刀剣の数は、今後減少することなく、毎月のように全国で増え続けている。関係省庁で調整の上、国としての対応を図ることが、銃刀法上の精神に最も則したところであろう。

銀座 泰文堂

千104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
代表 川島貴敏

TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037

<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先 090-8845-2222

代表者 高島吉童

東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

www.premi.co.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株) 日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

千105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

(株) 美術刀剣松本

松本 富夫 義行

千278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950

www.touken-matsumoto.jp

刀剣・小道具・甲冑武具

目白 **飯田高遠堂**

代表取締役 飯田慶久

千161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

<http://www.iidakoendo.com>

刀剣業界の情報紙である本紙では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

シヨウちゃん
健脚商売 9

神奈川県山北町 編



さて問題。「名古屋」こう書いて何と読む？ 正解は「ながぬき」。古くは大山街道、御殿場往還の要所だった場所。今、神奈川県山北町の模範ヒルクライムのメッカ、ヤビツ峠の入り口なので皆知っているらしい。

十キロほどの秦野市沢沢駅近くの森光廣刀匠の住まいだ。そこからさらに三十キロほどを森氏の車に乗せてもらい、丹沢奥の鍛錬所に連れて行ってもらう。

実はすべてを単独で走破すると百九十キロ。翌日職場で生ける屍になっちゃう。この案でよかった。



森光廣刀匠と鍛錬所前にて

神奈川県山北町の最奥の山北町世附。聞こえるものは野鳥のさえずりと世附川のせせらぎだけ。ここならどんなに鎌を振るっても、ほかに人家がないので苦情をもらうことはない。こんなに自然環境に恵まれた刀匠を現時点で俺は知らない。

この風景を見ての晩酌は格別であろうと尋ねると、「ここで飲んだことはないという。そりゃそうだ。自動車以外の交通手段はないものな！」

段はないものな！

聞けば、現在五十二歳の森氏。この道に入ったのは全日本刀匠会の他のメンバーに比べ、遅い。勤め人経験も長く、大学の生物科学科で修めた動物研究学歴を生かしてTV番組制作会社に勤務し、動物番組にも携わったという。熊以外の想像し得るすべての動物と鍛錬所で会ったというが、それでこの地を選んだのだろうか？

火床の周りでは、構想に入ってきた来春応募の刀文協のコンクールを視野に入れた寸延の短刀がまだ下鍛えの段階。そして完成に近づいている刀に槌を彫っている様子がかがえる。槌師である山村綱廣親方でなく、刀文協の坂城での刀職者実技研修会で自分より年下の川崎昂平刀匠に教わったという。

「大刀制市」の現代刀コーナーでは年下の「先輩」たちを立てる実直な森氏を来場者や、俺を含む組合員は目にしてきた。氏と厚木で別れた後、俺の脚を助けたのは氏の軽自動車である。その思いやりあふれる人柄に他ならない。折り目正しく初心を忘れないこの刀鍛

治は、他人をも若き日々へと導く。西日の中で俺は思い出していた。九八年のツール・ド・フランスで連覇がかかるテレコムチームのエースはヤン・ウルリッヒ選手(独)。それをアシストする一人はエースの十歳以上年上のアルベルト・エツリ選手(伊)。献身的にエースを支えた姿勢、人柄を買われ現在は日本のプロチームJinpoの監督を務める。その彼もし烈なレースの陰で虎視眈々と表彰台を狙ったあの大自然の中で静かに闘志を燃やす森刀匠は、この五十歳代で大きな収穫を得ると俺は確信している。

ところで、スポーツや武道の趣味を家庭に認めてもらうコツは、家族の前で「疲れた」「痛い」を言わないこと。これが俺の持論。しかし往復百二十キロともなると取材を兼ねている今回は嫁さんに言えない分、俺は言いたい。理事長、編集長、筋肉痛だよ！

(網取譲一)

連絡先 0258-0801 神奈川県山北町世附七四二一
080-8892-3979

奉納刀再生プロジェクトの成果が披露される

NEWS & TOPICS

日本美術刀剣保存協会岡山県支部(小池哲支部長)が三月から進めてきた、神社仏閣に奉納された日本刀の再生プロジェクトで、高岡神社(真庭市上中津井)所蔵の市重文の太刀などの研磨が終わった。当初の輝きを取り戻した。

再生したのは、同神社近くで活躍した刀工が江戸時代に奉納した三振。水田国重一門の頭領で、江戸初期に活躍した初代八良左衛門尉国重銘の太刀と、江戸後期の長船の横山加賀介祐永に学んだ大月世龍子源祐国作の太刀と脇指で、いずれも錆や刃こぼれが目立っていた。

当初は太刀のみが対象だったが、三ヶ月に募金と並行してインターネットで寄付を集めるクラウド・ファンディングを実施したところ、目標の五十万円を大きく上回る約三百万円が全国の刀剣ファンから寄せられ、急ぎよ二振を加えた。

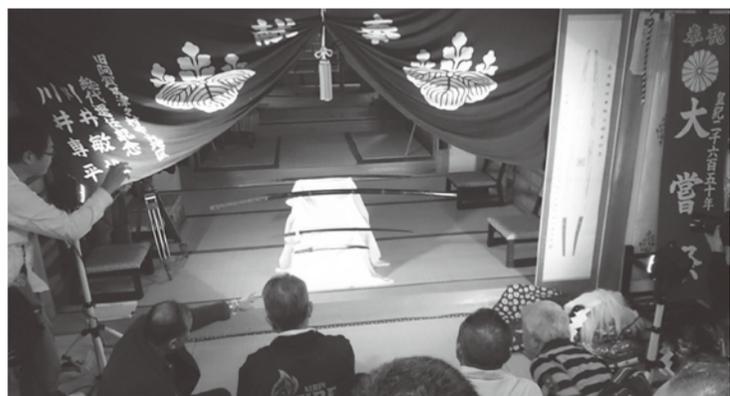
小池支部長は「太刀を作った国重の系譜が追えるなど、奉納刀を再生する意義は大きかった。今後もプロジェクトを継続したい」と話す。

集まった資金は数十万円残っており、来春にも吉備津彦神社(岡山県市北区一宮)の所有する上野大塚

祐定作の太刀を研磨する予定。再生プロジェクト第二弾の実施も検討していく。

三振のお披露目と鑑賞会は、十月十六日に県下の多くの愛刀家を集め、同神社拜殿で開催された。その際、刃文の特徴などからわかった刀工集団の系譜などについて小池支部長から解説があった。

これらは十一月十日から来年一月二十二日まで、備前長船刀剣博物館で公開される。その後は、岡山県立博物館に寄託される予定。



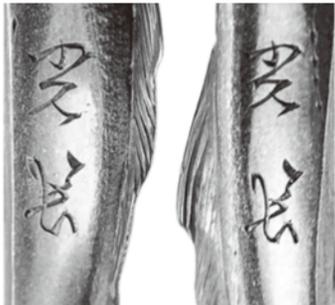
高岡神社で開かれたお披露目と鑑賞会

生野 正

私が出会った珍品・逸品



(拡大)



刀祖「元重」の作か!? 関市が購入へ

NEWS & TOPICS

岐阜県関市では、関鍛冶ゆかりの作品と推定される「元重」在銘の太刀をこのほど購入し、関鍛冶伝承館で公開している。

元重は鎌倉時代末ごろ、九州から美濃国に移住し、鍛冶技術をもたらしたとされる伝説の刀工。「美濃国鍛冶系図」で筆頭に元重の名があることから、関鍛冶の祖とされる。しかし、元重には押形が一点あるのみで、架空の刀工とみる向きもある。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)は室町時代初期の作と鑑定している。関伝日本刀鍛冶技術保存会の井戸誠嗣会長は「元重」という名の刀工が数代続いたという可能性も出てきた。刀祖元重とは違つかもしれないが、

関鍛冶の研究資料として重要だと話している。

この太刀は長さ六八センチで、「元重作」と三字銘がある。井戸会長によると、去る六月に岐阜市で開かれた「美濃刀愛好会」の集いで、静岡県の男性がこの太刀を持参して参加。井戸会長に「元重の刀は関にあった方がいい」と申し出たという。井戸会長が押形と太刀の特徴を照らし合わせたところ一致したため、同保存会が関市に購入を働きかけた。

市は購入費用三百万円を盛り込んだ補正予算案を市議会九月定例会で可決し、公開の運びとなった。



関市の千手院境内にある刀祖元重の碑

関鍛冶伝承館 050-1-3805
7 岐阜県関市南春日町九一
五七五-三三二八五
http://seikankou.jp/modules/content/index.php?id=97

鮎目貫 銘 光長作

光長は松平大和守家の武士であった斎藤三郎の子として、幕末の嘉永三年(一八五〇)に江戸で生まれました。文久二年(一八六二)十二歳のときに父子とも職を辞し、彫金業とすることを志します。その後、十六歳で初代豊川光長の門人となり、一心に柳川派の工法を学びました。十九歳のとき、見込まれて師の娘ハルと縁組みをし、二代目光長となります。

彼は人格・識見に併せて彫金の技量にも優れ、晩年までに多くの門弟を育てました。

大正十二年(一九二二)九月一日、七十四歳のときでしたが、関東大震災に遭い、墨田区本所で生涯を閉じました。文京区本駒込の養昌寺に墓があります。

通常は左右合わせて「光・長」と刻銘するところ、それに「光長」銘を刻しています。これは磨刀令以降に製作されたもので、既に目貫としての需要はなくなっていたため、磨入れの前金具にも使えるようにとの配慮がなされたものであると考えられます。

色上げも今となっては継承されていない非常に高い技術を示しており、鮎が生き生きして今にも泳ぎ出すかのようです。

この鮎目貫は当時製作された桐箱に収まっており、箱書きも本人の筆です。光長の号銘である白山子に落款が押されていて、脇に七十三歳と書き添えられています。ちょうど関東大震災で逝く一年前の作品といことがわかります。

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)



米山の麓に今もある薬師堂

慶長五年(一六〇〇)九月十五日、天下分け目の関ヶ原の合戦が繰り広げられた。その五十一日前の七月二十一日に、私の生まれ故郷の佐野市大伏の地にて真田家の運命をかけた親子三人による密談が行われていた。

その場所は、私の実家から八百メートルほどの所にある薬師堂である。佐野市の東側、小高い米山の麓に建つ。小さいころ、そこは「別れ橋」と呼ばれていたような思い出がある。

真田家が徳川家康の命で上杉討伐のため、宇都宮に向かう途中の出来事である。宇都宮まではわずかの距離。大坂からの密使が一日遅れていたら、真田家の運命はどう変わっていたか。九月四日に放送されたNHKの大河ドラマ「真田丸」の「大伏」をご覧になった方は、ご記憶であろう。話は次のような内容である。

第17回 榎木県佐野市大伏 『大伏の別れ』はわが少年期の思い出の地 冥賀 吉也

しかし、日本人の多くは、最も好きな武将や侍として源義経や坂本龍馬、土方歳三らとともに真田幸村を挙げ、尊敬し続けている。時を同じくして大伏には別の歴史秘話も残されているので、ご紹介したい。

真田親子が袂を分かって間もない八月二十五日ごろ、薬師堂から三百メートルほどの大庵寺に徳川秀忠の軍が陣を張り、宿泊している。大庵寺は、私が通学した大伏小学校の前にある立派なお寺である。宇都宮を出発した秀忠を総大将とする三万八千の徳川主力軍は、佐野・足利・高崎を経て碓氷峠を越え、中山道を下って関ヶ原に向かった。宇都宮を発って最初に陣を張ったのが、大伏の宿であった。

代表 紀伊 国屋 松浦 孝子 刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

九月二日、安倍首相とプーチン大統領の十四回目となる首脳会談が、日本に一番近いロシアの都市ウラジオストクにおいて開催されました。

プーチン大統領から安倍首相に日本刀が贈られる

同行筋によると、日本刀は昭和天皇の「即位の礼」の際に使用された十二振のうちの二振で、戦後米国内に流失し、オランダを経てロシア政府が所蔵していた経緯があるそう。詳しくはわかりませんが、おそらく衛府太刀拵に収まった太刀ではないかと思われる。

江州屋刀剣店 小暮 昇一



刀職者実技研修会に参加した研修生と講師陣

日本刀文化振興協会 「刀職者実技研修会」開く

公益財団法人日本刀文化振興協会は八月十九日(二十一日)の三日間、長野県・坂城町中心市街地「コミュニティセンター」を会場に「刀職者実技研修会」を開催した。参加者は作刀四名、研磨九名、白鞘四名、白銀九名、柄巻八名の合計二十四名に上った。

私は、初年度より「刀職者実技研修会」白銀の部に参加させていただいております。若いうちから刀剣に興味を持ち、独学で鍔や金具などを製作していましたが、プロの先生に教えていただくと聞き、この研修会に参加するようになりました。

最初は、鍔の製作の工程を覚えるのが精いっぱいでした。回数を重ねるごとに刀身や鞘(拵)とのバランスの見方がわかるようになり、その他の金具においても拵全体の姿を理解できていなければ、良い作品は製作できないと思に至りました。

私は、柄巻部門に参加しました。今年で三回目です。きっかけは、見学に来たことでなっている両首脳会談において平和条約締結への環境が一層整い、領土問題が進展し、近くて遠い国のイメージが払拭されることを切に願います。(嶋田伸夫)

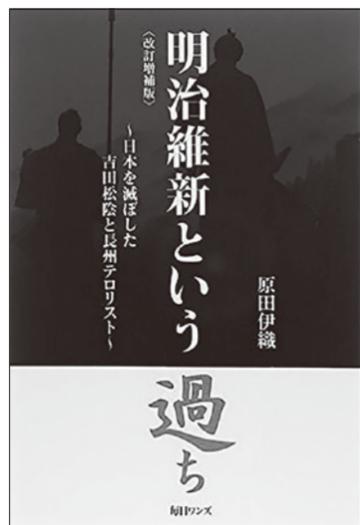
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1 TEL 0749-4215106 FAX 0749-4215108 携帯 090-3316217641

ブック・レビュー BOOK REVIEW

「明治維新」を否定的に描いた独特の歴史観

『明治維新という過ち〜日本を滅ぼした吉田松陰と長州テロリスト』

原田伊織 著 毎日ワンス 定価一、六二〇円(税込)



いきなり過激な題名である。しかしながら、この本を読むと、何となく納得してしまう自分が不思議である。

まず「明治維新」とは一体何なのか。「明治維新」という事件なり事象というものは歴史学上にも存在せず、「江戸幕府とその社会体制の転覆を図り、天皇親政を企図して、これらを実現させた、長州・薩摩による一連の政治・軍事活動」と筆者は記している。

いつからいつまでが明治維新なのかということについても、学者・研究者が実にさまざまに答を出している。開始時期については、改元された明治元年とする学者もいれば、黒船の来航からとする研究者もあり、終結時期に至っては、廃藩置県までと主張する者と、西南の役までとする説、立

憲体制の確立までとする説などがあり、これに関しては定説というものが全く存在しないのである。

また、「尊王攘夷」や「勤皇」という言葉を長州・薩摩藩士の代名詞のように受け取ることが多いが、クレーターの成功後は積極的に開国している。

余談になるが、小中学生のころの小生には、このことが幕末・明治初期の歴史において、とうとうか日本史の授業において、どうしても理解できなかった。

一度は手に取ってみたい古伝書のガイドブック

『刀剣書事典』

普段、われわれが活字以外の手書き文字を読む機会が極端に減りつつある。年賀状や暑中見舞いの加筆メッセージ、家族間の伝言くらのものになって、ほかはみな電子メールやSNSが取って代わり便利な世の中になった反面、他人の書いた文字が読みにくい、古

い変体仮名に至っては全く読めないという有様となっている。

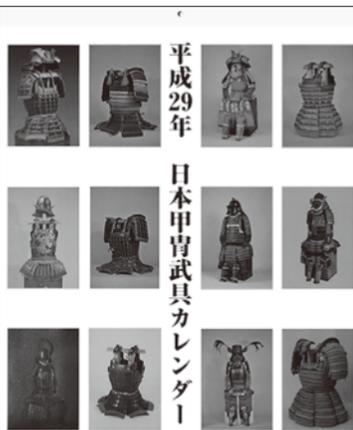
歴史を伴う工芸品の研究者であれば、古人の書き物を紐解くことは避けることのできない作業であろう。

得能一男氏は『刀剣春秋新聞』に「観智院本銘尽」に関して執筆し始めたのが四十九歳の時ということが記されており、あらためてその才覚を感じ早世が悔やまれる。

刀剣書事典 日本刀研究の先達が遺した刀剣古典籍の精緻な解題を事典化

記されておられるため、その才覚を感じ早世が悔やまれる。写本、版本を含め四十五冊の中には氏が常に回帰する、いわば手の内と言っているものもある。後を追

平成29年 日本甲冑武具カレンダー販売中



2017 Japanese Helmets and Armour Calendar

筆者は、第二章からは「七卿落ち」「池田屋事変」「大政奉還」「王政復古の大号令」と続く政争においても、長州・薩摩藩の躍進ぶりを書きなかつた。

れ去り、長州の一人勝ちとなる。明治・大正・昭和・戦後から現代の、岸・佐藤・安倍政権まで、長州の天下が続いているというわけである。

得能一男 著 宮帯出版社 定価三、二一八円(税込)

定価三、二一八円(税込)

刀剣商リレー訪問 26 金丸刀剣店(金丸一三さん)

研師から転身、名店を継いで育てる

東京の城南大田区。五反田駅と蒲田駅を結ぶ東急池上線。

古く電車のドアのそば二人は黙って立っていた



店頭立つ金丸一三さん

その池上線石川台駅改札口を左に坂を下ると、水川神社の石垣が見えてくる。少し行った左手のマンションの一階が、金丸刀剣店である。

その当時の名字は朝倉。長野の永和堂、全国刀剣商業協同組合元理事長の朝倉万幸氏は実兄である。その後、九州一と言われた金丸久志氏のご令嬢と結婚、金丸刀剣店を引き継いで、現在に至る。

大平将広氏(編集委員)と小川友律可さんがご結婚

九月二十三日、ホテルインターコンチネンタル東京ベイにて、本

紙編集委員の大平将広さんと小川友律可さんの結婚披露宴が執り行

われました。

宴は、先代の故大平将義氏の親友であった飯田慶久氏の祝辞に始まり、将広さんの師である高山武士氏の祝辞と続き、当組合の深海信彦理事長による乾杯の発声で幕を開けました。

乾杯と同時に新郎・新婦の後方の大きなカーテンが開き、東京湾の夕景が眼前に広がりました。

友律可さんの幸せそうな笑顔が印象的で、またアカペラで聞かせてくれ

披露宴は滞りなく進行し、結びの御礼挨拶では、将広さんが十九歳という若さで父上を亡くし、母上とともに店をやっていたこと、たときの決意や、その自分を支えてきたくださった皆さまへの感謝、これからの勝武堂の大黒柱としての意気込みなどが堂々と述べられました。このスピーチを聞けば、これからの勝武堂は安泰であり、来年には新しい命が誕生するとのうれしい報告もあって、まさに順風満帆です。

(土肥富康)



お礼の挨拶を述べる大平さんと新婦友律可さん

イベント・レポート

国宝殿開館記念展「春日大社の国宝」

世界遺産の神域にあらためて感動

十月一日から始まった春日大社 国宝殿開館記念展「春日大社の国宝」に行ってきました。連休明けの平日でしたが、多くの外国人が訪れており、日本古来の文化への関心の高さがうかがえます。

自家用車で行ったのですが、公園内の車道は神の化身である鹿がのびのびと行き交い、周りを気にすることなく自由に横断しています。現代の喧騒を離れ、浮世離れたような世界へ誘われた感覚にさえ陥りました。

まずは春日大社御本殿で商売繁盛の御祈禱を済ませ、いざ国宝殿へ。春日大社はわれわれ刀剣関係者にとって非常に重要な社であり、「春日大明神」の彫りのある作品も多く現存しており、剣の神とされる武甕槌命を主祭神とし、経津主神・天児屋根命・比売神を合わせた四柱が春日神として崇められています。

さていよいよ国宝館へ。入り口すぐの竈太鼓に迎えられ奥へ進んでいくと、国宝・重要文化財の神器が数々と並んでおり、普段目にする美術工芸品としての刀剣・刀装・武器類とは全く違う領域の神器の数々に圧倒されました。

桑名市博物館「村正―伊勢桑名の刀工」

村正作品の全容が郷土で明らかに

村正の名品がこれほど数多く見られた展覧会はなかったであろう。九月十日から十月十六日まで、三重県桑名市博物館にて「村正―伊勢桑名の刀工」が開催された。キャッチコピーに「刀文にやぶる『妖刀』の虚と実」とある。

太刀・刀が七点、短刀(寸延び短刀を含む)が十二点、剣が一点と、村正だけでも合計二十点が展示された。特筆すべきものとしては、戊辰戦争時に有栖川宮煇(とと)親王が節刀として佩用し、後に高松宮家に所蔵された村正(刀剣博物館蔵)、皆焼刃の見事な村正(徳川美術館蔵)、「勢州桑名住村正」銘で腰に梵字と腰樋のある刀(東京国立博物館蔵)などが素晴らしい。

裏年紀のある作品として、神館神社蔵の太刀と剣(いずれも三重県指定文化財)は、村正自身が奉納したものと思われ、ともに刀身に「神立」の彫物がある。銘文は「勢州桑名藤原朝臣村正作/天文



「村正」展が開催された桑名市博物館

ととて非常に重要な社であり、「春日大明神」の彫りのある作品も多く現存しており、剣の神とされる武甕槌命を主祭神とし、経津主神・天児屋根命・比売神を合わせた四柱が春日神として崇められています。さていよいよ国宝館へ。入り口すぐの竈太鼓に迎えられ奥へ進んでいくと、国宝・重要文化財の神器が数々と並んでおり、普段目にする美術工芸品としての刀剣・刀装・武器類とは全く違う領域の神器の数々に圧倒されました。

また、刀剣文化の原型となった時代の品々が現存しており、拝見できた感動と、現代まで残っている奇跡とわが国の歴史を証明する財)が今回展示された。二振とも「勢州桑名郡益田庄藤原朝臣村正作/天文十二天美卯五月日」と全く同銘であり、それぞれの刀身佩表に「春日大明神」「三崎大明神」と彫られている。「桑名郡益田庄」と居住地が記されているのも貴重である。

ほかに短刀は熱田神宮蔵のものも多く出品され、さまざまな作風が参考になった。村正以外では、千子正重・正真・藤正や、江戸後期桑名藩のお抱え刀工となった岡山宗次、桑名住の三品広房など幅広く展覧された。刀装具類では桑名鐺が数多く出品されていた。

少し時間があつたので、会場から車で十分ほどの所にある村正の屋敷跡を訪ねてみた。走井山と言う小高い丘の麓にあり、昔は湧き水が豊かだったそうだが、今はマンションが建っていた。走井山からは指斐川や木曾川の河口堰が見渡せ、眼下には東海道の玄関口として栄えた「七里の渡し」も見える。昔、桑名という地

文化財の偉大さに戸惑いさえ覚え、うまく表現する言葉が全く見つからないという初めての経験になりました。(玉山真敏)

新たに開館した春日大社国宝殿

第四十九回「刀剣研磨・外装技術研修会」、第四十三回「鍛冶研ぎ研修会」

「村正体感」鑑賞会を地元桑名で開催

「村正体感」日本刀特別鑑賞会。まだ暑さの残る九月十日(土)と十一日(日)の両日、三重県桑名市市民会館一階展示室において「伊勢国桑名の日本刀 名刀か妖刀か あなたの眼と手で確かめる 村正体感 日本刀特別鑑賞会」が午前・午後二部に分けて開催されました。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)は、八月二十九日(月)から九月三日(木)まで、同協会講堂にて専門技術者養成を目的とした事業、第四十九回刀剣研磨・外装技術研修会、第四十三回鍛冶研ぎ研修会を開催した。

訪問した九月二日は、白鞘・刀装柄前、白銀の三部門に分かれ、講師を囲んでその技を食い入るように見つめる方、課題箇所を熱心に質問する方など、厳しい残暑に負けず熱気だった。この研修会を二十年にわたって担当している黒滝たつら・伝統文化推進課長は、後継者育成に使命感を抱き、「来る新博物館完成もあり、公益財団法人として一段と充実した研修事業を行いたい」と熱く語る。今後も幅広い育成活動が期待される。(伊波賢一)

厳しい残暑の中、熱心に学ぶ研修生

村正などの鑑賞を待つ方々

- 組合こよみ** (平成28年9~10月)
- 9月1日 銀座刀剣倶楽部会場で「刀剣界」第31号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・赤坂理事・生野理事・網取理事・持田理事・木村隆志氏・土子民夫氏
 - 2日 公益財団法人日本美術刀剣保存協会より刀剣評価の依頼を受け深海理事長と伊波常務理事が顧問5日 組合事務局において産経新聞社事業推進室・松本氏と「大刀剣市」の広告掲載につき打ち合わせ。出席者、清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・生野理事
 - 13日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ初校。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・松本理事・持田理事・齋藤隆久氏・木村氏・冥賀亮典氏・土子氏・事務局2名
 - 14日 清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事が産経新聞社を訪問
 - 16日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ再校。出席者、清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・土子氏
 - 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加40名、出来高12,632,000円
 - 17日 東京美術倶楽部にて第3回理事会を開催。出席者、深海理事長・嶋田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤坂理事・飯田理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・土肥理事・松本理事・大平監事・土子氏
 - 17日 東京美術倶楽部にて「刀剣界」第32号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・網取理事・持田理事・土子氏
 - 27日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ色校。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・土子氏
 - 29日 同美印刷において「大刀剣市」カタログ念校。出席者、清水専務理事・生野理事・土子氏
 - 10月1日 銀座刀剣倶楽部会場で「トーガシ」と「大刀剣市」の打ち合わせ。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・嶋田理事
 - 18日 古物商等警察署別法講習会に事務局より出席(牛込警署市民ホール)
 - 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加72名、出来高18,876,500円
 - 23日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」事前説明会を開催
 - 23日 東京美術倶楽部にて第4回理事会を開催。出席者、深海理事長・嶋田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤坂理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・土肥理事・松本理事・吉井理事・大平監事・土子氏
 - 23日 東京美術倶楽部にて「刀剣界」第32号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤坂理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・持田理事・松本理事・大平氏・土肥富康氏・土子氏

催事情報

東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎03-3822-1111
http://www.tnm.jp/

春日大社 千年の至宝

世界遺産の1つである奈良・春日大社は、奈良時代の初め、平城京の守護と国民の繁栄を祈願するため創建され、古くから鹿を「神の使い＝神鹿」として大切にしてきました。本展では、“平安の正倉院”と呼ばれる王朝工芸の名宝とともに、貴重な中世の刀剣類、武器・武具、春日信仰にかかわる絵画・彫刻などの名品の数々を一堂にご紹介します。

展示構成：

- 第1章 神鹿の杜
- 第2章 平安の正倉院
- 第3章 春日信仰をめぐる美的世界
- 第4章 奉納された武具
- 第5章 神々に捧げる芸能
- 第6章 春日大社の式年造替

会期：前期展示＝1月17日(火)～2月12日(日)
後期展示＝2月14日(火)～3月12日(日)
※2月14日(火)～19日(日)には国宝の甲冑4領が展示されます。



佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 ☎055-975-7278
http://www.sanobi.or.jp

名刀は語る 磨きの文化

名刀が美しい輝きを放っているのは、鍛刀されてから今日に至るまでの数百年の間、絶えず磨き続けてきた人々がいたからです。この間、名刀は多くの人の手に渡り、それにふさわしい多くの物語が生まれました。「磨く」ことで輝きを得る刀と、名刀を持つことでそれに相応しい己になるべく自己を「磨く」人々がいたのです。

本展では日本人が培ってきた、磨くことによって素材の美しさを引き出す文化をテーマに、刀剣をはじめ、拵に使用される金工技法や漆工技法も含めご紹介します。会期：11月12日(土)～2月19日(日) 一部展示替えあり。前期11月12日～12月23日/後期1月7日～2月19日

特集展示：重要文化財 短刀 無銘 貞宗(名物太鼓鐘貞宗)/大笹穂槍 藤原正真作(号蜻蛉切)



千葉県立中央博物館 大多喜城分館

〒298-0216 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481 ☎0470-82-3007
http://www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=59

甦った受難の刀剣～千葉県の赤羽刀～

平成7年「接収刀剣類の処理に関する法律」が成立し、所有権者不在の「赤羽刀」を全国の公立博物館等に無償譲与して公開、活用することとなりました。この結果、千葉県内で赤羽刀譲与を受けた施設は、当館のほか、県立関宿城博物館、県立現代産業科学館、県立中央博物館大根分館、八千代市立郷土博物館、茂原市立美術館・郷土資料館、睦沢町立歴史民俗資料館、袖ヶ浦市郷土博物館の7施設です。

本展は、これらの施設で所蔵する刀剣類のうち、代表的なものを選び、一堂に集めて展示し、広く一般県民はじめ皆さまに公開するものです。

- 展示構成：①甦った赤羽刀
②刀装具 伝統的拵と軍刀拵
③日本刀のできるまで

会期：10月21日(金)～12月11日(日)



福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3-12-1 ☎0776-21-0489
http://www.history.museum.city.fukui.fukui.jp/

企画展 刀と刀装

越前松平家伝来の刀剣と刀剣外装をはじめ、古刀・新刀の名品を一堂に展示します。特に今回は、当館収蔵品のみならず、県内の刀剣愛好家

多数のご協力を得て、名刀および刀装の名品を数多くご紹介します。会期：9月14日(水)～11月23日(水)

森記念秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町1-3-6 ☎076-425-5700
http://www.mori-shusui-museum.jp/

所蔵名品刀展 秋水の美Ⅱ

開館の初年度は、所蔵名品刀展「秋水の美」として、当館が所蔵する日本刀の名品を中心に1年間を通じて4回にわたり展示します。

第Ⅱ期では、重要文化財指定の畠田真守(芸州浅野家伝来)や長銘の古備前包平(上州館林藩秋元家伝来)など大名家伝来の優品や、越中国で

活躍した刀工を展示します。さらに現代刀工の作品についても展示し、平安時代後期から今日に至る日本刀の持つ奥深い魅力について紹介します。同時に、日本刀から広がる美の世界として、刀装具をはじめ、甲冑なども展示します。

会期：9月6日(火)～12月28日(水)

太田市立大隅俊平美術館

〒373-0036 群馬県太田市由良町3051 ☎0276-20-6855
http://www.oosumi-museum.jp/

「直刃の大隅」の乱れ刃

「直刃の大隅」と称賛された大隅刀匠が「直刃」の道を目指すようになったのは、刀匠が敬愛して指導を仰いだ日本刀研究家で財団法人日本美術刀剣保存協会会長などを務めた本間薫山先生との出会いによるものでした。今回展示する3口はいずれもそれ以前の作品であり、大隅刀匠

の作品としては大変珍しい「乱れ刃」の刃文で、当美術館としても直刃以外の作品は初公開となります。

この「乱れ刃」3口と併せて、「直刃」の作品を展示し、それぞれの作刀時期の違いによる作風の変化をぜひご鑑賞ください。

会期：10月22日(土)～1月22日(日)

高槻市立しろあと歴史館

〒569-0075 大阪府高槻市城内町1-7 ☎072-673-3987
http://www.city.takatsuki.osaka.jp/rekishi_kanko/rekishi/rekishikan/shiroato/index.html

刀剣の精美～乱世の名刀と大坂新刀～

日本固有の鍛冶技法で製作された刀剣は、鋭利さや強靱さで武器としての高い実用性を誇ります。また、所有者の身分や家の格式・由緒を表す象徴性を有します。さらに、優美な形状や鍛えられた地鉄、変化に富む刃文は、精美な美術品として高く評価されています。

本展は、刀剣の基礎知識や歴史をわかりやすく解説するとともに、美術品としての魅力や、歴史資料としての重要性を紹介します。中でも、江戸時代に大坂で作られ、精美な地鉄と華麗な刃文で名声を博した「大坂新刀」を特集するとともに、高槻ゆかりの刀剣を紹介します。

会期：10月8日(土)～12月4日(日)
主な展示品：重要文化財 刀 一文字(岸和田藩主奉納)/太刀 雲次(西郷隆盛所用)/太刀 景秀(高槻藩主奉納)/大身槍 同田貫(黒田家伝来)/太刀 信国(木村重成所用)/太刀 康光(井伊家伝来)/薙刀 助広



日本刀一時を越え継がれゆく神器

11月から東京都江東区・古石場文化センターにおいて第4回日本刀講座が行われます。この講座は去年の3回目終了の予定でしたが、近年の刀剣ブームによる影響で多くの要望、問い合わせがセンターに多数来ており、急ぎ第4回目として今年も開催する運びとなりました。

はるかいにしえより続く鍛冶製法で作り上げられた美術工芸品。それが日本刀です。その製造工程は長い歴史に沿った、まさしく神事とも言える厳かな作業です。

この講座では、信仰の対象や権威の象徴としての側面とともに、生み出された刀身の美的観点や、凝らされた刀装具の意匠の魅力をわかりやすく解説していきます。

講師は、公益財団法人日本美術刀剣保存協会・刀剣博物館学芸員の田中浩子さんと黒滝哲哉さん、刀匠の水木良光師、刀剣研磨では無鑑査の臼木良彦とその一門が担当。

- 日程・カリキュラム：
- 11月17日(木) 日本刀—その美しさと魅力に刀匠とともに迫る
 - 12月15日(木) 日本刀の源流—いにしえより受け継がれるたたら製鉄とは
 - 1月15日(日) 刀剣博物館新春展示見学会
 - 2月16日(木) 臼木良彦とその門弟による日本刀研磨の実演
 - 3月16日(木) 日本刀—その華やかなる装飾の世界

講義は各回午後7時～8時半
受講料：6,700円(全5回分)
教材費：300円(保険代含む)
問い合わせ・申し込み先：
(公財)江東区文化コミュニティ財団・江東区古石場文化センター
〒135-0045 江東区古石場2-13-2
☎03-5620-0224 FAX03-5620-0258
http://www.kcf.or.jp (臼木良彦)

